

**OUND PURE**

## 製品特長

- 1 インテリジェントIDを採用、混合伝送によりタイムラグを防止
- 2 マイク出力変更可能。カラオケボックス等狭小部屋にも対応
- 3 赤外線リアルタイム方式を採用。マイクロホン設定が容易に可能
- 4 UHF無線マイクロホン専用周波数帯を採用。電波障害を防止
- 5 30チャンネル搭載により、任意設定及び調整が可能
- 6 マイクロホンに単3形乾電池を採用。バッテリー供給が安価で便利
- 7 バランス、非バランス出力の特性により音響機器の接続に便利
- 8 受信機に二系列のチューナー搭載。
- 9 受信機がマイクロホンのパラメーター信号を受信。管理調整に便利

## 目次

- 1 安全にお使いいただくために
- 2 異常と感じたり、異常なことが発生したら
- 3 受信機の機能、接続
- 4 マイクロホン（発信機）①～③の機能
- 5 システムの設定（周波数の設定）
- 6 長距離受信（RF HI）と短距離受信（RF LO）の設定
- 7 ご使用時の注意事項
- 8 故障かなと思った時は
- 9 セット内容
- 10 システム規格

# 1 安全にお使いいただくために

- ご使用の前に、本書を必ずお読みになり正しくお使いください。
- 本書には、安全にお使いいただく内容を記載しております。必ず、お守りください。
- 本書をお読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。製品を安全にお使いいただくため、内容をよく理解してからご使用ください。
- 水にぬらさない  
機器に水が入ったり、ぬれたりしないようご注意ください。また、液体の入った容器や小さな金属物を上に置かないで下さい。火災、感電の原因になります。
- 指定外の電源電圧で使用しない  
表示された電源電圧以外で使用しないで下さい。破損、火災、感電の原因になります。
- 電源コードを傷つけない  
電源コード及び電源アダプターを傷つけたり、加工、改造しないでください。また、コードの上に重いものをのせないでください。感電の原因になります。
- 落雷等に注意  
雷が鳴ったり、落雷時は電源プラグやアンテナ等にはさわらないでください。感電の原因になります。
- ぬれた手で電源プラグ等をさわらない  
ぬれた手で電源プラグ及びアダプタープラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- 電源コード等を引っ張らない  
電源プラグ、アダプタープラグを抜くときは、コードを引っ張らないで下さい。破損断線により、火災、感電の原因になります。必ずプラグ部分を持って抜いてください
- 電源プラグやコンセント部分の掃除をする  
電源プラグを差し込んでいるコンセント部分にはほこり等がたまると、火災の原因になります。定期的にコンセント部分の掃除をしてください。また、電源プラグは根元まで差し込んでください。
- 移動させるときは電源プラグを抜く  
電源プラグを差し込んだまま移動させると、コードが破損、火災、感電の原因になります。必ず電源プラグを抜いて移動させてください。
- 乾電池の液もれに注意する  
長期間使用しない場合、乾電池を取り出してください。液もれにより、機器の破損、火災、けが等の原因になります。
- 乾電池の取り扱いに注意する  
乾電池の液もれ、破裂により、機器の破損、火災、けが等の原因になります。以下のことを、必ずお守りください。
  - ショート、分解、加熱をしたり、火中に投じない。
  - 乾電池に、直接はんだ付けしない。
  - (+)、(-)に注意して、表示どおり正しく入れる。
  - 指定した乾電池を使用する。
  - 直射日光、高温多湿の場所を避けて保管する。
- 長時間使用されない場合の注意  
お手入れの時や長期間ご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 重いものをのせたり不安定な場所に置かない  
機器の上に重いものを置いたり、不安定な場所に置いた場合、転倒、破損等によりけがをする原因になります。必ず安定した場所でご使用下さい。
- 湿気やほこりの多い場所に置かない  
高温多湿な場所、ほこり等の多い場所、油煙や湯気のアたる場所に置かないでください。また、熱器具の近くには置かないでください。火災、感電の原因になります。
- 機器を改造、分解しない  
機器を改造、分解、ケースを開けた状態などでご使用されますと、火災、感電の原因となり、死亡事故等（傷病）につながる可能性があります。
- 本書に従い適正に使用する  
誤った取扱いをすると、傷害を負ったり、死亡事故につながる可能性があります。本書記載内容に従い、適正にご使用ください。
- 医療機器の近くで使用しない  
電磁波等で医療機器に影響を与えることがあります。機器の電源を必ず切ってください。誤った取り扱いをされますと、傷害事故につながります。また、人体に悪影響を及ぼす可能性がございます。
- 工事が必要なときは専門店で相談する  
アンテナ設置などの工事を必要とする場合は、技術と経験のある工事店にご相談ください。
- 本製品は精密機器です  
本製品は精密な部品からなる製品です。激しい衝撃等は与えないで下さい。取り扱いには充分注意をし、安全にご使用ください。

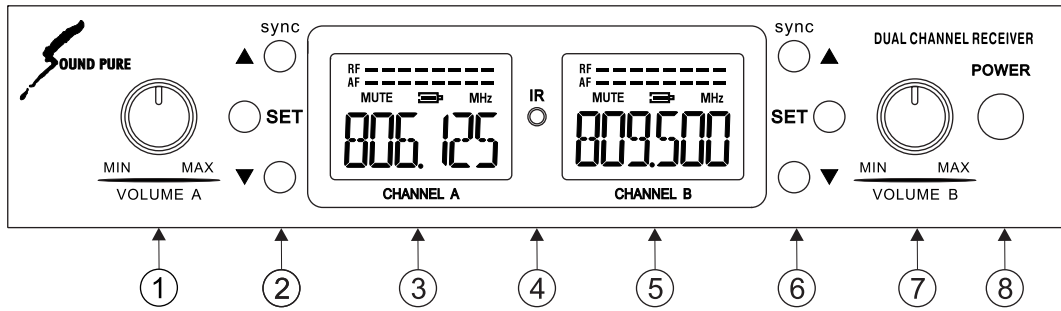
## 2 異常と感じたり、異常なことが発生したら

- 受信機より煙が出ている。変なおいがる
- 機器内部に水や異物が入ったとき
- 落下等により、ケースその他を破損したとき
- 電源コードが傷んだとき(心線の露出、断線など)
- ケース部分が、異常に熱くなる。または、異常な音がする。
- マイクロホン等を水没させたとき
- その他、使用时異常を感じたとき。または、不安を感じたとき

上記の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用されますと、火災、感電、物的損害、人身事故につながる可能性があります。

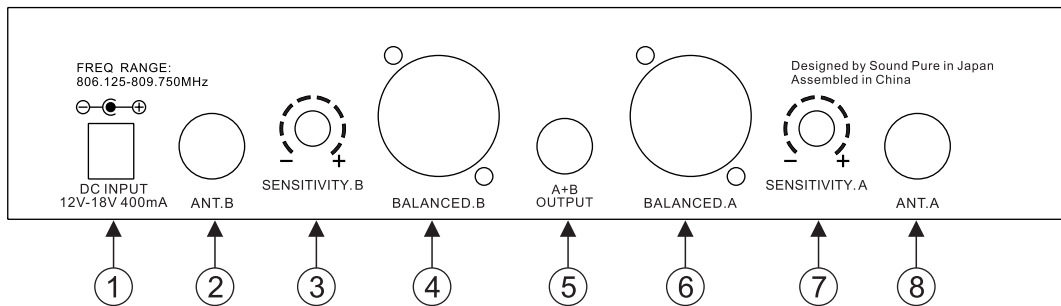
### 3 受信機の機能

#### フロントパネル



- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ① CH. A ボリューム     | ⑤ CH. B LCDディスプレイ |
| ② CH. A 設定ボタン     | ⑥ CH. B 設定ボタン     |
| ③ CH. A LCDディスプレイ | ⑦ CH. B ボリューム     |
| ④ IR 赤外線情報レンズ     | ⑧ 電源スイッチ          |

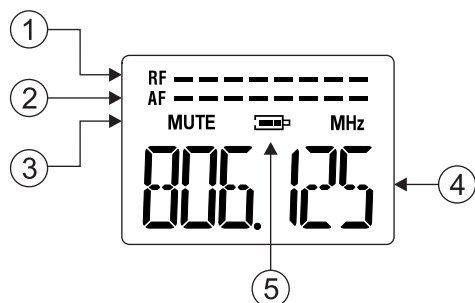
#### リアパネル



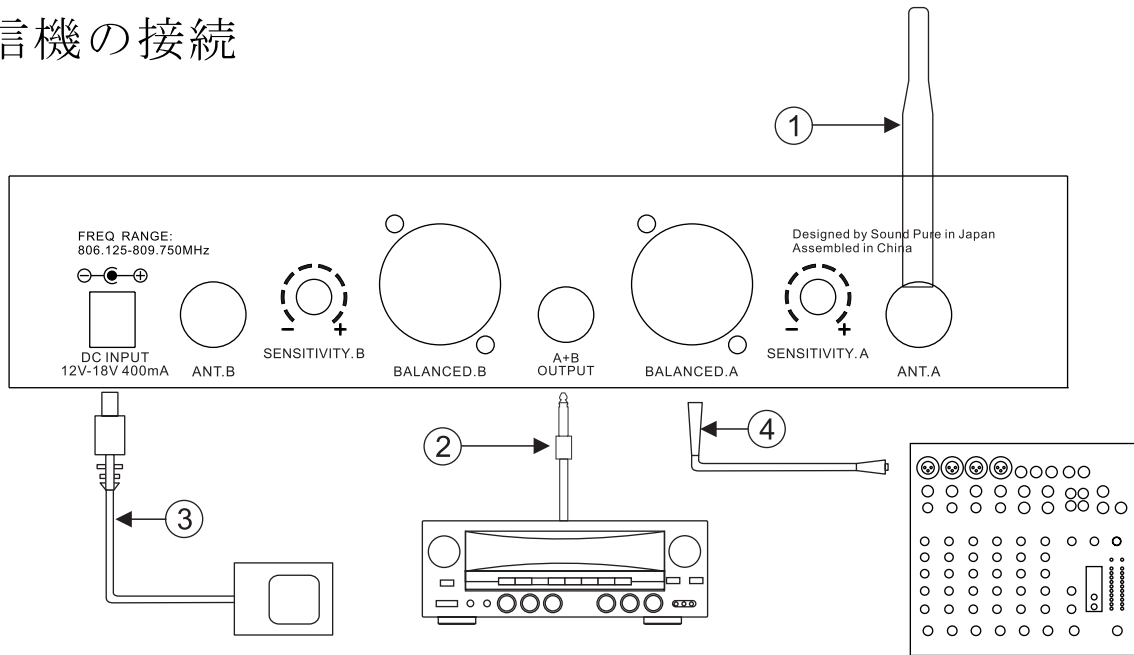
- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| ① DC電源接続端子            | ⑤ 混合アンバランス出力          |
| ② CH. B アンテナ端子        | ⑥ CH. A バランス出力XLR端子   |
| ③ CH. B 電波感度調整(混信時調整) | ⑦ CH. A 電波感度調整(混信時調整) |
| ④ CH. B バランス出力XLR端子   | ⑧ CH. A アンテナ端子        |

#### 液晶画面の説明

- ① 電波状況を表示します。  
(遠距離RF点灯、近距離RF点滅)
- ② 音声入力感度を表示します。
- ③ ミュート表示(電波信号off時)  
に点滅マイク側スタンバイ時消灯  
電源OFF以外チューナー側にミュート  
表示はされません。
- ④ 周波数表示
- ⑤ 電池残量表示(電池マークの点滅は電池交換時期の表示です)  
マイクの電池が消耗したとき、LCDディスプレイが点滅してお知らせします

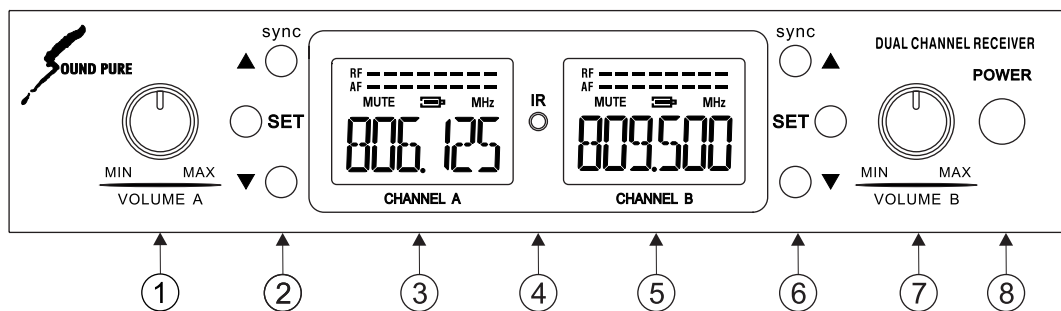


### 3 受信機の接続



- ① アンテナの接続 (ANT. A ANT. B 共通)  
アンテナのプラグをアンテナ端子に差し込み、右に回して固定してください。  
アンテナの角度は90度ぐらいが適正です。
- ② 音響機器等とプラグ接続に使用します。(A. Bチャンネル混合出力)
- ③ 電源アダプターのプラグを差し込みます。
- ④ 音響機器等とのXLR接続に使用します。(A. Bチャンネル個別出力)

### 受信機の起動

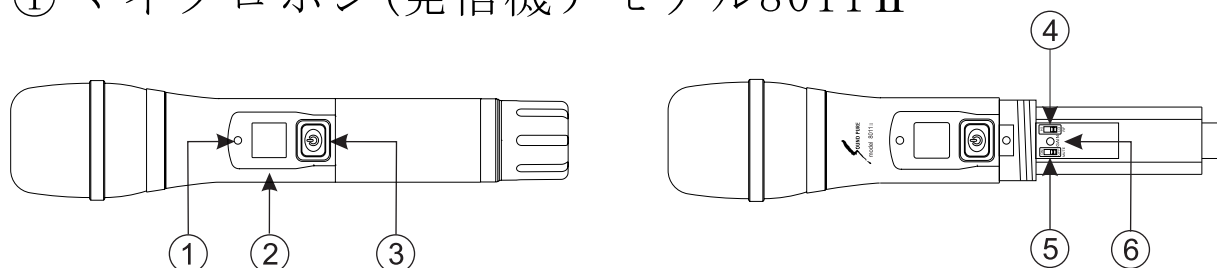


### 電源のON-OFF

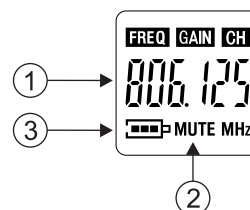
- 電源のON ⑧の電源スイッチを長く押すと液晶画面にUHF IDと表示されます。  
1秒後に周波数が表示され電源ON状態になります。
- 電源のOFF ⑧電源スイッチを長く押すと液晶画面にSYSOFFと表示されます。  
1秒後に、電源OFF状態になります。

(長時間使用しない場合、電源アダプターをコンセントから外して下さい)

## 4-① マイクロホン(発信機) モデル8011Ⅱ



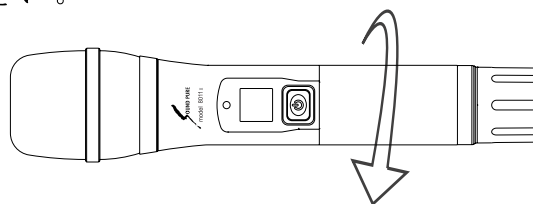
- ① IR赤外線情報レンズ  
受信機と情報の交換をします
- ② LCDディスプレイ 受信状態を表示します。
  - ① 使用周波数を表示します。
  - ② ミュート時 MUTE の文字が点滅します。
  - ③ 電池の消耗を表示  
点滅時、交換時期を表します
- ③ 電源/ミュートスイッチ  
スイッチを一度押すと、電源ONとなり、長く押すとOFFになります。  
電源ONの時、短く押すとミュートONになり、もう一度短く押すとミュートOFFになります。
- ④ RF電波強弱切替スイッチ  
切替スイッチをL0側にすると、混信の防止になります。(通常時HI側)
- ⑤ ミュートロックスイッチ  
ON側にすると、ミュート機能が使用できなくなります。  
③電源 / ミュートスイッチが電源のON/OFF動作のみとなります。
- ⑥ GAIN(ゲイン) 調整スイッチ  
⑤ミュートロックスイッチがOFFの時、音声入力の調整ができます。  
電源ONの時、ペン先等で3秒ほど押すとGAIN表示になります。  
押す度に0dB(出荷時)→10dB→20dB(最大感度)→-10dB(最少感度)の  
順で入力感度が切り替わります。



- \* インタビューなど静かな場所で使用時は10dB～20dBでご使用ください。
- \* 打楽器やハードな音量時は、-10dBでご使用ください。
- \* 接続する音響機器、使用条件に合わせて調整してください。(出荷時0dB)

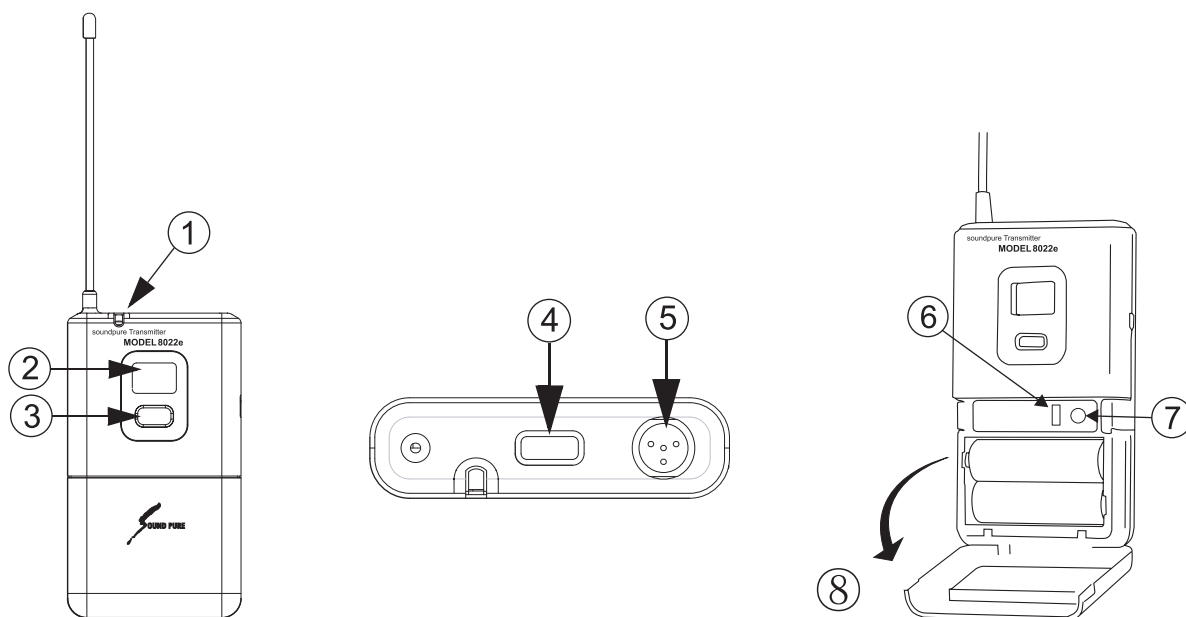
## 電池の交換

本体のボディーカバー部分を、下図のように回して外してください。  
電池をヘッド側(マイナス側)へ押え込みセットしてください。  
電池は、ヘッド側がマイナス面でキャップ側がプラス面です。  
+、-を、間違えないように、ご注意ください。



電池寿命はマンガン電池(ロー出力)で約8時間です。  
消耗時間はご使用環境により異なります。  
製品の特性上、電池ボックスのスプリングは、硬めに調整してあります。

## 4-② マイクロホン(発信機) モデル8022e



### ① LEDランプ

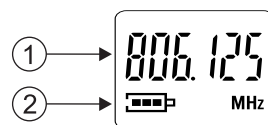
赤色点滅は電池が消耗しています。  
緑色点滅でスタンバイ状態です

### ② LCDディスプレイ 受信状態を表示します。

①使用周波数を表示します。

②電池の消耗を表示。

点滅時、交換時期を表します。



### ③ AF音声入力感度調整スイッチ

AF1=-30dB (音量最小) AF2=-20dB AF3=-10dB AF4=0dB (音量最大)

接続する機器、マイク等に合わせて調整してください。(出荷時AF1=-30dB)

### ④ 電源/スタンバイスイッチ

スイッチを一度押すと、電源ONとなり、長く押すとOFFになります。

電源ONの時、短く押すとスタンバイ状態になり、もう一度短く押すとスタンバイ解除となります。

### ⑤ マイク接続端子 (ミニXLR)

ミニXLRジャックのマイク等を接続します。

### ⑥ RF切替スイッチ

RF Hは長距離ハイパワー送信、RF Lは短距離ローパワー送信を表します。

使用状況に合わせ、切り替えてご使用ください。

### ⑦ IR赤外線情報レンズ

周波数チャンネル等のセッティングの際、受信機の情報を読み取ります。

電池カバーを開けた状態でリアルタイムデータ受信、データ交換をします。リアルタイムデータを使用の際、必ず一台ずつ行ってください。

### ⑧ 電池ボックス

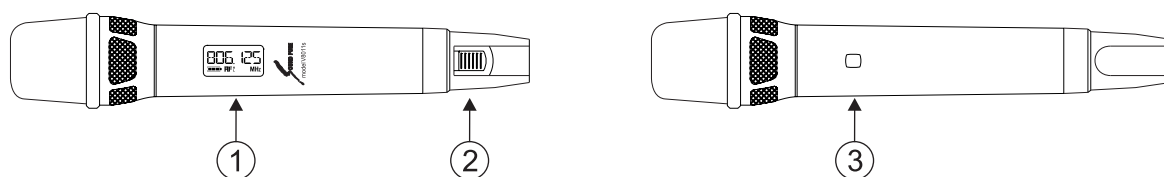
開閉の際は、本体中央凹みに軽く指をかけて開いてください。

電池寿命はマンガン電池 (ロー出力) で約8時間です

消耗時間はご使用環境により異なります。



## 4-③ マイクロホン(発信機) モデルV8011s



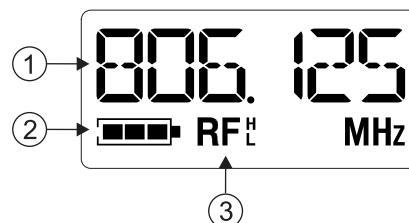
### ① LCDディスプレイ

受信状態を表示します

① 使用周波数を表示します。

② 電池の消耗を表示。LCDディスプレイ点滅時  
交換時期を表します。

③ 送信距離の表示



**RF<sup>H</sup>**

長距離ハイパワー送信を表します

**RF<sub>L</sub>**

短距離ローパワー送信を表します

### ② マイクスイッチ

電源のON-OFFを切り替えます。

### ③ IR赤外線情報レンズ 受信機と情報の交換をします。

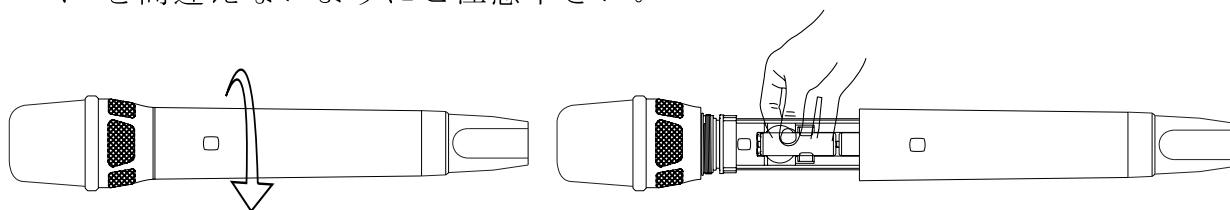
マイクの電源をONにした際、ディスプレイが明るく点灯します。

その後薄暗い点灯に変わり、赤外線リアルタイムデータを受信し、  
データ交換をします。

リアルタイム機能を使用する際、必ず一台ずつ行ってください。

## 電池の交換

本体のボディカバー部分を下図のように回し、スライドして外してください。  
電池をヘッド側(マイナス側)へ押し込みセットしてください。  
電池はヘッド側がプラス面で、スイッチ側がマイナス面です。  
+、-を間違えないようにご注意ください。



電池寿命はマンガン電池(ロー出力)で約8時間です。

消耗時間はご使用環境により異なります。

製品の特性上、電池ボックスのスプリングは、硬めに調整してあります。

## マイクロホン(発信機) ご使用時の注意事項

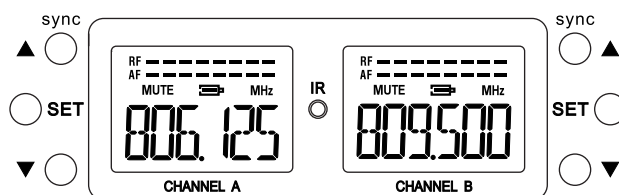
- \* 長期間使用しない場合、乾電池を取り出してください。液もれにより、機器の破損の原因になります。
- \* 機器に水が入ったり、濡らしたりしないようご注意ください。
- \* 火気の側や熱器具の側に置かないでください。
- \* 精密な部品からなる製品です。激しい衝撃等は加えないでください。

## 5 システムの設定（周波数の設定）

### 受信機の周波数変更設定

A、B両チャンネル共に操作方法は同じです。

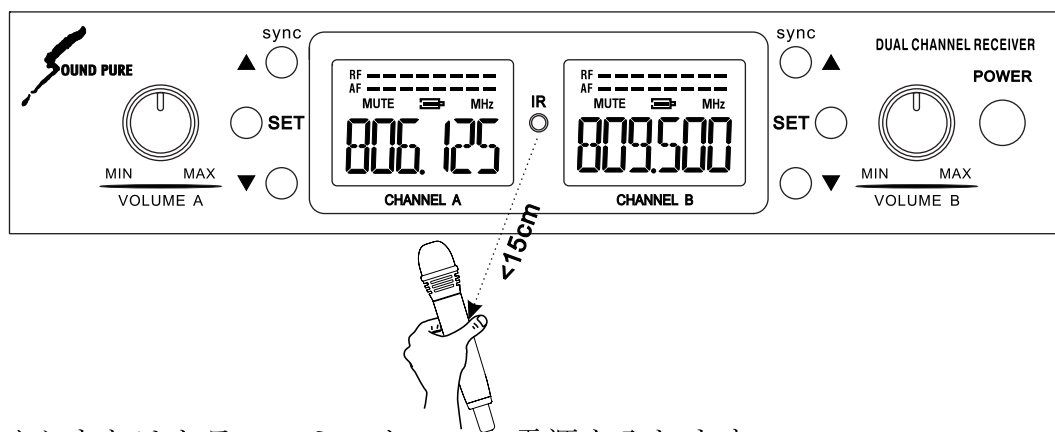
- 1 受信機のSETボタンを1回押す。
- 2 TUNECH が表示されます。
- 3 ▲または▼ボタンで周波数の増減を行い、任意の数値に合わせます。
- 4 ボタンから、手を離すと3秒後に自動セットされます。



### 受信機ロック設定

CHANNEL Aの▼ボタンを長押し（約3秒間）すると、周波数設定がロックされます。同操作を行うことで、ロックを解除できます。

引き続き、受信機とマイクの周波数をあわせます。



- 1 マイクまたはトランスミッターの、電源を入れます。
- 2 IR赤外線情報レンズをまっすぐに、受信機のIR赤外線情報レンズに向けます。15cm以内に、合わせてください。
- 3 セットしたいチャンネルの▲ボタンを1回押します。
- 4 赤外線シンクロナイズ機能により、自動セッティングが始まります。
- 5 受信機にSYNRQと表示され、その後SYNEDと表示されると完了です。

システムは赤外線シンクロナイズ機能により、受信機とマイクの情報交換をします。

### まとめ

受信機	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 SETボタンを1回押す</li> <li>2 ▲▼ボタンでチャンネル選定</li> <li>3 しばらく操作しないとセット完了</li> </ol>
マイク トランスミッター	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 マイク側のIR赤外線情報レンズと受信機側のIR赤外線情報レンズを合わせる。</li> <li>2 ▲ボタンを1回押す。</li> <li>3 送信機の設定が変わるとセット完了。</li> </ol>

注意 チャンネル設定は必ず説明書のチャンネルグループ内6波で設定してください。違うチャンネルグループで設定すると電波切れや混信の原因になります。

## 受信システムの周波数グループ表

B1 グループ	B2 グループ	B3 グループ	B4 グループ	B5 グループ	B6 グループ
B11 806.125	B21 806.250	B31 806.625	B41 806.750	B51 807.625	B61 807.250
B12 806.375	B22 806.500	B32 806.875	B42 807.500	B52 808.125	
B13 807.125	B23 807.000	B33 807.375	B43 808.000	B53 808.375	
B14 807.750	B24 807.875	B34 808.250	B44 809.125	B54 808.750	
B15 809.000	B25 808.500	B35 808.625	B45 809.375	B55 809.625	
B16 809.500	B26 808.875	B36 809.250	B46 809.750		

☆注意 チャンネル設定は必ず説明書のチャンネルグループ内6波で設定してください。

違うチャンネルグループで設定すると電波切れや混信の原因になります。

☆受信システムの設定は、上記の周波数表を参考にセットしてください。

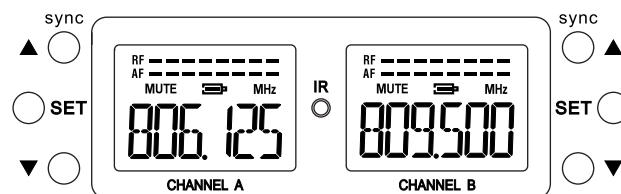
☆ 同じチャンネルで複数同時使用はできません。

例) B4グループの場合: CHANNEL AをB41に、CHANNEL BをB46にセット

## 6 長距離受信 (RF HI) と短距離受信 (RF LO) の設定

カラオケボックス等狭い場所での使用時、電波干渉を緩和するための設定です。

電波干渉が、発生する場合下記のセッティングを行ってください。



### 短距離受信の設定

- 1 SETを2回押すと、SET RF が表示。
- 2 ▲▼ いずれかのボタンを1回押すと、RF HI (長距離受信) (出荷時)が表示。
- 3 もう一度 ▲▼ いずれかのボタンを押すと、RF LO (短距離受信)が表示。
- 4 LO (短距離受信)表示させたままでSETを1回押します。
- 5 マイクのIR赤外線情報レンズを受信機のIR情報赤外線レンズに向け(15cm以内)、セットするCHANNEL AまたはCHANNEL Bの▲ボタンを1回押します。
- 6 赤外線シンクロナイズ機能により、自動的にセッティングが始まります。
- 7 受信機のLCDディスプレイ内のRF点滅により、セット完了です。

### 長距離受信の設定

- 1 SETを2回押すと、SET RF が表示。
- 2 ▲▼ いずれかのボタンを1回押すと、RF HI (長距離受信) (出荷時)が表示。
- 3 もう一度 ▲▼ いずれかのボタンを押すと、RF LO (短距離受信)が表示。
- 4 HI (長距離受信)表示させたままで、SETを1回押します。
- 5 マイクのIR赤外線情報レンズを受信機のIR情報赤外線レンズに向け(15cm以内)、セットするCHANNEL AまたはCHANNEL Bの▲ボタンを1回押します。
- 6 赤外線シンクロナイズ機能により、自動的にセッティングが始まります。
- 7 受信機のLCDディスプレイ内のRF点灯により、セット完了です。

## 7 ご使用時の注意事項

- 距離受信設定（長距離 RF 点灯、短距離 RF 点滅）は、CHANNEL A、CHANNEL Bともに同じセッティングでご使用ください。
- 電波干渉などで音声の途切れなどの現象があるとき、CHANNEL A/Bの値を前ページ周波数グループ表を参考に變更してください。
- 照明器具、パソコン、コンパクトディスクなど電気機器の電源タップの側では受信ノイズを受ける場合があります。電磁波の少ない環境でご使用ください。
- 音響機器等との接続にはアンバランスコード（ホーン）、バランスコード（XLR）など、干渉ノイズを受けにくいコード類をお選びください。
- 一部地域によっては電波干渉が発生する場合があります。前ページ周波数グループ表を参考に變更してください。
- 接続する機器によりピンクノイズ等の発生がある場合、機器のミキサーのゲインコントロール及びイコライジング等で対処してください。
- 受信機の電源にファンタム電源は使用しないで下さい。故障の原因になります。
- 安定した受信距離としては屋内30m、屋外50m(環境により1波のみ安定)がワイヤレスマイクの使用可能な範囲の目安としてください。
- ワイヤレスマイクの使用範囲から見通せる位置、人の背の高さより上で受信機を設置してください。
- 壁面より30cm以上離して設置し、鉄骨やロッカーなどの金属物やコンクリート壁金属構造物などの障害物のない環境でご使用ください。
- ワイヤレスマイクと受信機が近すぎると、誤作動や雑音が発生する恐れがあります。ワイヤレスマイクと受信機の距離は、2m以上離してご使用ください。  
(出力設定や設置場所等の条件により異なります。)
- ワイヤレスマイクを2本以上同時に使用する場合、20cm以上離してご使用ください。ハウリング等雑音が発生する場合があります。
- 受信機のアンテナ部分に直接手など触れないようにしてください。アンテナが手などに触れていると、通信範囲が狭まる場合があります。
- 暖房器具や振動を伴う器具の側で使用しないでください。
- 強いハウリングや衝撃を感知した場合リミッター機能が働き、こもった音になる事があります。電源を入れ直す、軽いハウリングをおこす、時間をあけるなどを行ったうえでご使用ください。
- 長距離の受信は、CHANNEL AまたはCHANNEL Bのいずれかのチャンネルでご使用ください。（推奨）同時使用されると、不安定な状態になる事があります。
- 設置状況、電波環境等により不安定な音になる場合は、人の背の高さよりアンテナを高く設置したり、ワイヤレスマイクと受信機の距離を安定する距離に保ってみてください。

## 8 故障かと思った時は

故障の症状	ディスプレイ	解決方法
音が出ない	マイクの電源が入っている 受信機の電源が入っている	接続機器及びコード類を点検してください マイクと受信機の赤外線シンクロナイズを再度設定
	受信機の電源が入っていない	電源コード、アダプターを点検してください。
	マイクの電源が入らない 赤い点滅をしている	電池の消耗です。交換してください。 電池は正しく入っていますか？
	受信機の電池マーク表示	受信機の音量を調整してください
突然雑音が出る	受信機のMUTEが時々点灯する	電磁波の影響を受けている（DVD、CD、PCなど） 周波数グループ表を参考に周波数の変更設定を行う
ノイズが出る	マイクのLCDが点滅	電池の消耗です。交換してください
音声がざらつく	受信機の電池マーク表示	受信機の音量を調整してみる 接続機器の音質調整を試みる 受信機裏面の電波感度調整（混信時調整）で調整する
音声が途切れる ノイズが出る	受信機のRFが点滅 A、Bのアンテナマークが不安定	長距離受信の設定を行ってみる 片側のマイク電源を切ってみる AとBの同時使用時の受信範囲は約30mまで 受信機の近くで使用する 受信機裏面の電波感度調整を最大にする

☆ 注意 チャンネル設定は必ず説明書のチャンネルグループ内6波で設定してください。  
違うチャンネルグループで設定すると電波切れや混信の原因になります。

### 明らかに故障と思われるときは

マイクは2本とも同一品ですので、同じチャンネルで一台ずつマイクをテストしてみてください。

マイクが故障している場合、A、Bともに同じマイクが異常を示します。

受信機の故障確認は、A、Bチャンネルともに同じ周波数で一台ずつマイクのテストをしてください。

同じ受信チャンネルで障害が現れましたら、受信機の故障が考えられます。

お買い上げの販売店にご相談ください。

## 9 セット内容

- 1 受信機 1台
- 2 ワイヤレスマイク 2本
- 3 オーディオシールド 1本
- 4 電源のアダプター
- 5 アンテナ 2本
- 6 ラックマウント金具
- 7 取扱説明書

## 10 システム規格

### 受信機仕様

受信距離	最長約100m(使用環境による)
無線周波数帯	806.125~809.750MHz(125kHz間隔,30波)
方式	PLLシンセサイザー スーパーテヘロダイン方式
高周波バンドワイズ	3.625MHz
オーディオ歪み率	+/-5ppm<10KHz
周波数チャンネル数	30チャンネル
使用温度範囲	-0°C~+40°C
周波数特性	50Hz~15kHz
S/N比	>105dB IHF-A network
感度レベル	-105dBm(20dBSINAD)
THD	(THD≤0.5%,1kHz)
表示の方式	LCDディスプレイ方式
オーディオの出力方式	音声出力2系統 300Ω インピーダンス -10dBm バランスXLR/2系統 アンバランス/1系統(出力混合)
赤外線通信	最大範囲1m
消費電力	約400mA(12V~15V DC)
外装寸法	幅210mm 高46mm 奥195mm
重量	1.1kg
適合	日本電波法 製品安全試験 認証取得製品

### マイク仕様

送信周波数	806.125MHz~809.750MHz(125kHz間隔 30波)
電波形式	F3E
発信方式	水晶制御PLLシンセサイザー方式
変調方式	FM変調
送信帯域幅	110kHz以内
周波数安定性	±10ppm以内
送信出力	HI 8mw, LO 3mw
変調感度	±10kHzFM(94dBSPL 1kHzにて)
最大周波数偏移	±45kHzFM
周波数特性	100Hz~10kHz(1kHz基準,50μsエンファシス)
使用電池	単三型乾電池 2個
電池持続時間	約10時間 使用電池、使用環境による
使用温度範囲	0°C~40°C
適合	日本電波法製品安全試験 認定取得製品
モデル8011Ⅱ 本体寸法	最大径φ51.4mm 最小径φ34mm 長さ263mm
重量	重量約336g(電池除く)
モデル8022e 本体寸法	幅63mm 厚み20mm 高さ110mm アンテナ高80mm
重量	重量約82g(電池除く)
モデルV8011s 本体寸法	最大径φ52.8mm 長さ261mm
重量	重量約356g(電池除く)

\* 上記内容は、製品の品質向上などの理由のより、予告なく変更することがあります。

